

温泉メーター TDHシリーズ

保守点検要領書



目 次

1. ストレーナ部の分解・洗浄方法

・ ストレーナ部の分解		1 頁
・ ストレーナ部の洗浄		1 頁
・ ストレーナ部の再組立		2 ～ 3 頁

2. 計測部の分解・洗浄方法

・ 計測部の分解		4 ～ 5 頁
・ 計測部の洗浄		5 頁
・ 計測部の再組立		6 ～ 9 頁

1. ストレーナ部の分解・洗浄方法

1. キャップを外す

13mmの場合



パヨネット方式ですので、反時計方向に約90度回せば、キャップが外れます。

20・25mmの場合



ネジ式ですので、一般のナットのように緩めてキャップを外して下さい。

2. ストレーナを取り出す

13mmの場合



20・25mmの場合



3. 水洗いにより異物を取り除く (13～25mm共通)

ストレーナ



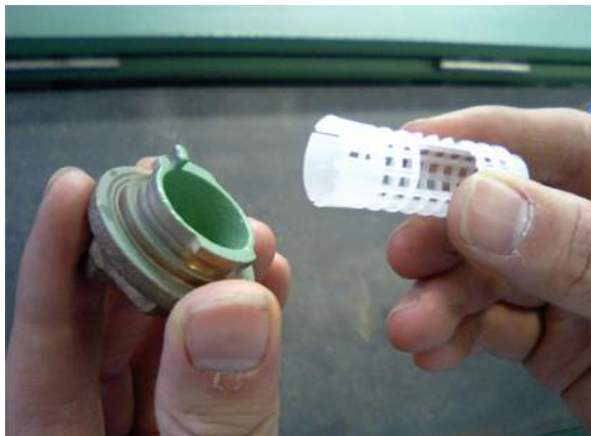
キャップ



キャップの内面は、テフロンコーティングが施されているので汚れは容易に除去できます。

4. ストレーナの装着

13mmの場合



下ケースに装着する前にあらかじめストレーナとキャップを組み付けます。



組付けは、上の写真のようにストレーナの切り欠き部(3ヶ所)をキャップのリブ(3ヶ所)差し込みます。相対する番号同士を合わせて下さい。



上記のリブと切り欠きの番号を合わせて組み付けると、この3枚の写真の状態となる。



20・25mmの場合



網ナシ部を上流側に向けて装着する。

ストレーナの底がある方を下にし、網ナシ部を上流側に向けて下ケースに挿入して下さい。



ツバと溝を合わせて装着する。

下ケースの2ヶ所の溝にストレーナのツバが入り込むように組み付けて下さい。

5. Oリング(小)にシリコンオイル塗布 (13~25mm共通)



キャップ締め付け時のすべりをよくするため、Oリング(小)にシリコンオイルを塗布して下さい。

塗布後、Oリングは下ケースの溝にきちんと納めて下さい。
なお、Oリングやシール面に異物は無いことを確認して下さい。

6. キャップを装着する

13mmの場合

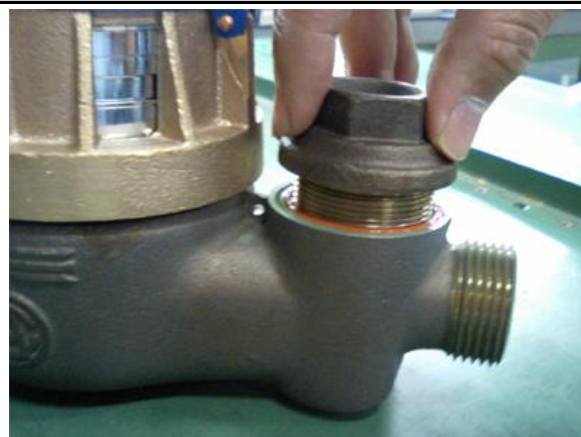


ストレーナとキャップを組み付けたものを、写真に示す向きで下ケースに挿入する。



バヨネット方式ですので、キャップを時計方向に止まる位置まで回せば(約90度)、完了です。

20・25mmの場合



ネジ式ですので、一般のナットのようにねじ込んで下さい。



ネジが止まるまで締め付ければ、完了。

以上で、ストレーナ部の清掃は完了です。

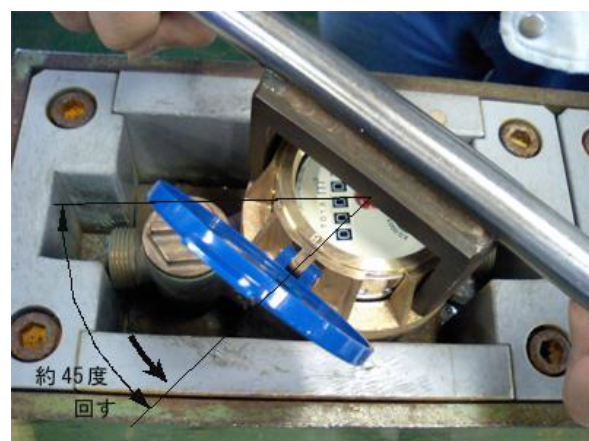
2. 計測部の分解・洗浄方法

(13～25mm共通)

1. トルクスネジを外す



2. 上ケースを緩める



バヨネット方式ですので、上ケースを反時計方向に約45度回転させて下さい。
メーターはバイス等で固定して下さい。
工具はパイプレンチ等で代用できます。

3. 上ケースを取り外す



4. 指示ユニット押さえを外す



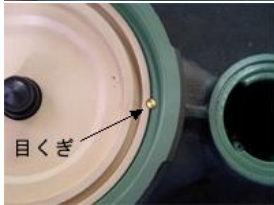
5. 指示ユニットを外す



6. Oリングを外す



7. 目くぎ及び計量部を取り出す



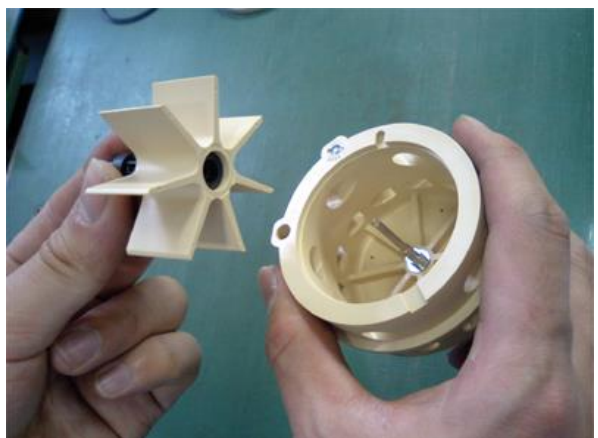
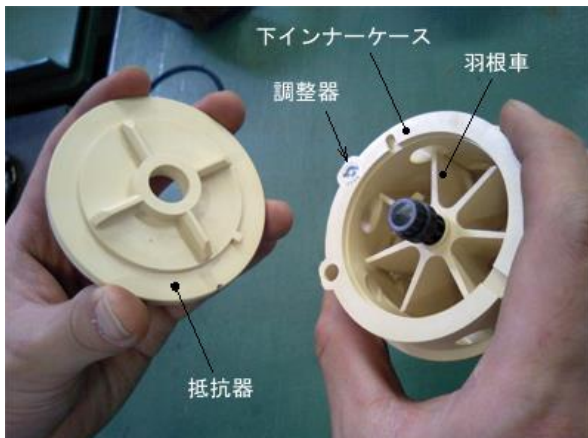
注) 計測部が取り出しにくい時は、逆さにして少し振って下さい。この際に、目くぎが紛失しないように注意して下さい。

8. パッキンを外す



注). 下ケース棚部に貼り付いている場合が多いため、切損しないように注意して外して下さい。

9. 計量部の分解



注). 下インナーケースに圧入されている調整器は触らないで下さい。器差性能に影響が出ます。

10. 部品洗浄

下インナーケース



羽根車



抵抗器



下ケース



注1). 部品洗浄は水洗い程度とし、強いブラッシングは部品を傷つける恐れがあるため避けて下さい。洗浄の目安は、軸受部や、下インナーケースのノズル孔の異物を除去する程度で十分です。

注2). 下ケースの内面は、テフロンコーティングが施されているので汚れは容易に除去できます。

11. 下インナーケースへパッキンを装着

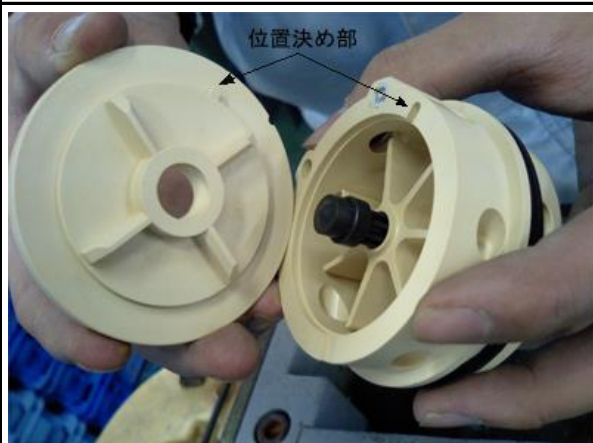


パッキンは下インナーケースの下方から装着し、ツバ裏面に密着させてください。

12. 羽根車の組付け

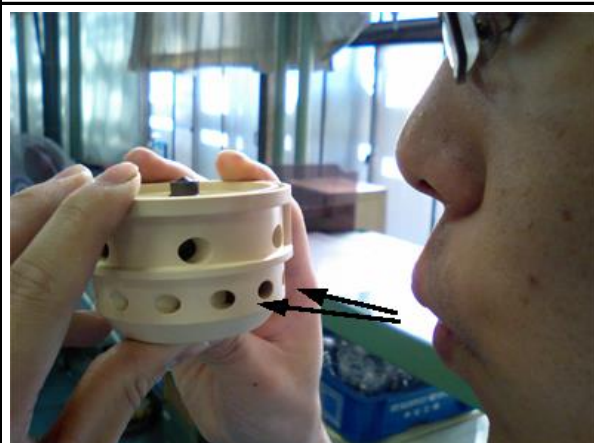


13. 抵抗器の組付け



注). 位置決め部(凹凸)を合わせること。

14. 羽根車の回転チェック



計量部を水平に持ち、下インナーケースのノズルに向かって息を吹きかけ、羽根車が円滑に回転することを確認して下さい。

15. 計量部を下ケースに挿入



16. 計量室の位置決め



下ケースの溝と計量部の溝が一致し、且つ、計量室のA面と下ケースのB面が同じ高さになるように組み込んで下さい。
段差がある場合は、再度11項からチェックして下さい。

17. 目くぎを穴に差し込む



18. Oリングにシリコンオイル塗布



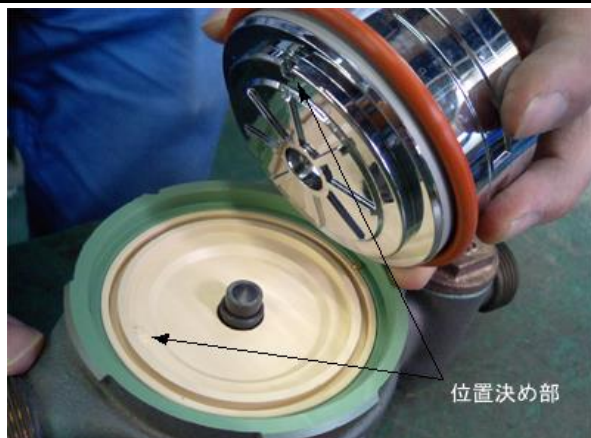
Oリングのすべりを良くするため、ストレーナ部のOリング(小)と同様にシリコンオイルを塗布して下さい。

Oリングに異物の付着が無いことを確認して下さい。

19. 指示ユニットにOリングをセット



20. 指示ユニットを組み付ける



注). 位置決め部(凹凸)を合わせること。

21. Oリングの位置を整える



Oリング位置を下ケースの上面に触れる位置まで下げて下さい。

22. 上パッキンの位置を整える



23. 指示ユニット押えをのせる



24. 上ケースを被せる

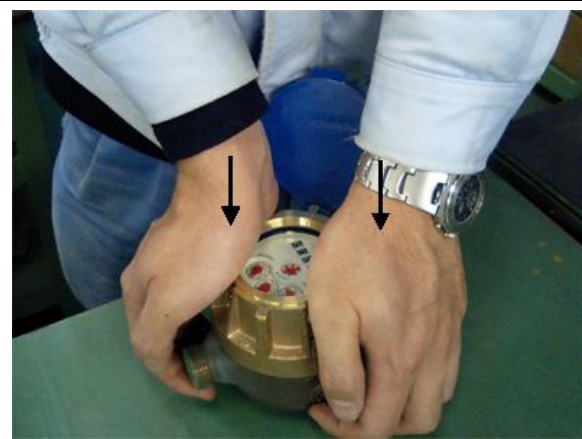


25. 上ケース組付け前の仮乗せの位置



上流側に対し、フタのヒンジ位置が約45度ずれた位置に仮乗せして下さい。

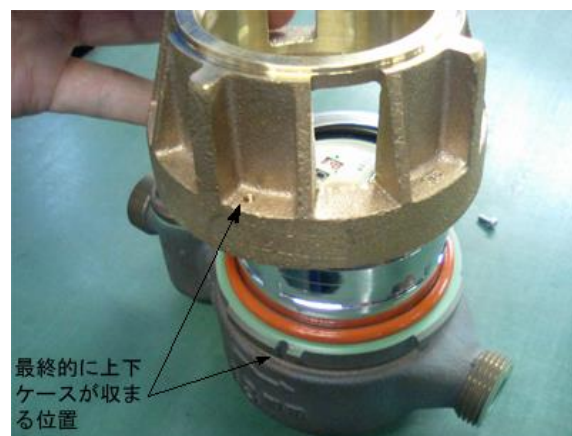
26. Oリングの圧入



左に示す位置で上ケースを上から強く押すと、内部のOリングが圧入されます。

27. 上ケースの組付け

上ケースの組付け位置は、トルクスネジの孔位置が下ケースの溝の位置に来るように狙って回転させます。

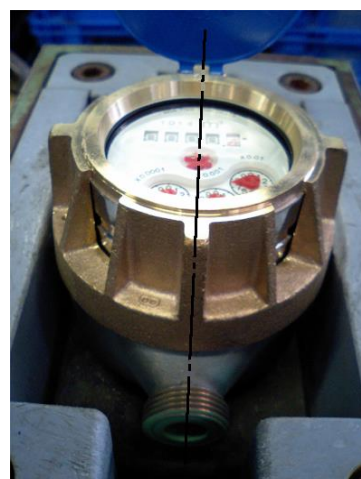


最終的に上下ケースが収まる位置



約45度回す

バヨネット方式ですので、メーターをバイス等で固定し約45度回転させ、上記の位置関係にきた位置で止めて下さい。
なお、工具はパイプレンチ等で代用できます。



締め付け後は、フタの位置がほぼ中心線上になるはずです。

28. トルクスネジの締め付け



29. メーターの動作チェック



最後に、メーター入口側から息を吹きかけて、メーターが正常に作動することを確認して下さい。
表示部中央の赤色のパイロットが回転すれば正常です。

以上で、計測部の清掃は完了です。